

1. 2 大学図書館の役割

国立大学図書館協議会会長
東京大学附属図書館長
小宮山 宏

1. 大学とは何か

1) 大学の使命

- ・ 人類共通の知的資産を増やすこと
すぐに産業界や社会に応用できる知識を増やすことではない
- ・ 社会からの要請の変化
現在の閉塞感の打破が大学に求められている
「開かれた大学、社会に向けた大学」へ
- ・ 「基本に立ち返れ、大学の基本は教育である」

2) 大学・大学まわりの変化

- ・ 大学院の重点化と教育（職業大学院／法科大学院／メディカルスクール）
- ・ 大学進学率50％と学部生の教育
- ・ 博士課程学生の教育
産学官連携の中での活用
- ・ 国立大学の法人化 中期目標・中期計画の策定と評価
- ・ 「動け！日本」の提言――東大が描く日本新生の道
大学教育の改革／知識の構造化／
硬直した日本から抜け出せるのは、「大学」しかない

2. 知識の構造化

1) 知識の構造化

- ・ 知の膨大化（20世紀）

人口	3.5倍
穀物生産	7.5倍
工業生産（鉄）	20～30倍
知	1千～1万倍

→ 知識の構造化

2) 大学教育の課題

- ・ 知識を適切に活用できるようにすること
- ・ 知識の適切な活用による教育の組織化
- ・ 力のある人材育成

← 知識の構造化

(例) 工学知の構造化と可視化 <東京大学教育プロジェクト室>

3) 教育プロジェクト室の役割：教育システムの改良

- ・工学知の構造化と可視化 (知識の俯瞰的認識の必要性)
 - ・学生のセルフ・オリエンテーション
 - ・教官のファカルティ・ディベロップメントの支援
 - ・流動性・多様性への対応
- カリキュラムの構造化 <テーラーメードの教育>

3. 大学図書館の役割

1) 役割の再確認

- ・図書館は「大学の教育・研究を支援するための1つの組織」
他の情報処理部門との連携・協力が必要
- ・大学・社会が大きく変わろうとしているときに、図書館をどう変えていくのか
- ・教官・学生のために何ができるか、何をするのか

2) 目的の再認識

- ・中期目標・中期計画の作成と実施／図書館の評価
- ・予算と人の確保／育成
- ・企画・マネジメント
- ・(図書・雑誌の購入・整理等の) 実務処理
- ・教官・学生へのサービス

3) マネージメントの考え方の例ーホロニク・システム(／マネージメント)

- ・自律的であると同時に協力的な存在
- ・個と全体／個と個相互 の調和

<東大：共働する一つの図書館システム>

- ・全学共通図書予算と図書業務人員の確保
- ・図書館職員の自律
- ・部局図書館・室の自律 (対 中央図書館)
- ・図書館の自律 (対 大学／ 対 各図書館協議会)

4. 図書館職員の役割

1) 専門職とは何か

- ・図書館職とは何か

他の技術職や事務職との相違はなにか

アウトソーシングをどうとらえるか

- ・事務補佐員、アルバイト、T A
- ・助手（東大などでは、特殊資料・特殊言語の整理の多くを依存）

2) キャリアの自覚とキャリアアップの必要性

- ・「図書館職員として、どういうキャリアをもっているか
／どういうキャリアを目指すのか」

・背景

国立大学法人化

大学（の教育や研究）・社会が大きく変わりつつある

評価システムの導入の可能性（キャリアによって、適材適所配置、評価）

・キャリアアップの具体例

資料の購入ができるか／外国雑誌・外国図書が購入できるか

整理ができるか／特殊資料・特殊言語の整理ができるか

利用者サービスの基本的なことができるか

／情報リテラシー教育・利用支援ができるか

マネジメントができるか

（グループ、係、課、部、図書館等の各レベルでの経営ができるか）